\Orchestrating a brighter world NEC

ICカードソリューション 導入事例

PASPY運営協議会（広島電鉄株式会社）様

国内ICカードシステム初のベンダースイッチを実現
安定性・拡張性を強化しサービス拡充につなげる

広島電鉄株式会社
取締役
経営企画本部長
横田 好明 氏

広島電鉄株式会社
経営企画本部
経営企画部
事業推進課（PASPY担当）係長
藤原 善博 氏

広島電鉄

社　　名：広島電鉄株式会社
所 在 地：広島県広島市中区東千田町2-9-29
資 本 金：23億3562万5000円
売 上 高：280億400万円（2014年度）
従業員数：1,638名（2015年3月31日現在）
概　　要：鉄道・軌道、バス、不動産の3分野を中心に事業を展開。特に鉄道・軌道事業では、運営する路面電車の1日当たりの輸送人数で日本最大級の規模を誇る。各種都市開発プロジェクトにおいても中心的な役割を果たすなど、多様な側面から広島の都市機能を支えている。

事例のポイント

課題背景

- ICカードシステムを刷新したいが、既存ベンダーを変更することに不安があった
- システムの運用負荷を削減し、本来業務にそのリソースを充てたい
- システムの制約を受けず、交通機関の利便性向上施策を拡充したい

成　果

- **多様なニーズを反映**
  複数の交通事業者の要望をスムーズに取りまとめて反映
- **保守の一元化**
  現場端末を含めた保守の窓口をNECに一本化し、負担を軽減
- **サービス向上のための基盤を整備**
  安定性、拡張性に優れたICカードシステム基盤を実現

利用イメージ

●「PASPY」の利用イメージ

「PASPY」は、広島県内の交通事業者が運行する電車、バス、新交通システムなどの共通交通乗車券として利用可能。チャージは車載機や専用端末のほか、銀行ATMなどでも行えるなど、利便性向上が図られています。

PASPY運営協議会（広島電鉄株式会社）様

導入前の背景や課題

カード利用者が増加し、システムが追い付けない状況に

広島県の電車・バス各事業者では、2008年1月から非接触型の交通系ICカード「PASPY（パスピー）」を導入し、継続的に利用者の利便性向上に努めてきました。

例えばJR西日本のICカード「ICOCA」をPASPYエリア内で使えるようにしたり、広島銀行や広島県内の4信用金庫（広島信用金庫・呉信用金庫・しまなみ信用金庫・広島みどり信用金庫）でATMチャージが行える仕組みを実現したことはその一例。現在は約130万枚のPASPYが発行されています。

「こうした発行枚数の増加は、我々にとって歓迎すべきもの。しかし一方で、利用が想定以上に広がったことで、ICカードのシステム基盤側に問題が浮上してきました」と広島電鉄の横田 好明氏は打ち明けます。

特に深刻だったのは、カード利用時のトランザクション増加にシステムが耐えきれず、レスポンスの低下や不具合が起こっていたことです。

「PASPYは、県内の交通事業者が共同で立ち上げた『PASPY運営協議会』が運営しています。月に1回、運賃などの清算・配分処理を行いますが、その処理が遅延しかねない状況でした」（横田氏）。万一処理が遅れれば、各社の月次会計処理に悪影響が及び、経理処理に影響を及ぼすリスクも存在していました。

「こうした状況では、サービス向上に向けた新たな施策を検討することもままなりません。たとえ考えられたとしても、システムに不安を抱えたまま実行に移すことは難しい。そのため各事業者からの要望に応えられない状態が続いていたのです」と横田氏は語ります。

選択のポイント

決め手は実績と長期保守。NECへのベンダースイッチを決断

そこでPASPY運営協議会は、既存ICカードシステムの抜本的な見直しを図ることにしました。

「不安なく運用できる安定性、将来的な機能追加が容易な拡張性、約1年半後に迫ったシステム更改期限に間に合わせるといったことを要件に設定。複数のベンダーに提案を依頼しました」と広島電鉄の藤原 善博氏は話します。

綿密な検討の結果、最終的にプロジェクト実施のパートナーに選んだのがNECです。

「全国の交通系ICカードシステムにおける多くの実績とノウハウ、および人材の豊富さを高く評価しました。今回のプロジェクトは、全国でも初となるICカードシステムの『ベンダースイッチ』です。不安もあったのですが、NECの経験がそこで生きてくると考えました」と横田氏は採用理由を語ります。

またNECは、長期保守により、将来的なシステムの運用や拡張までをサポートすることを提案。「このことも採用の後押しになりました。構築完了後の運用フェーズにおいても、長く我々の取り組みを支援してくれる。最適な仕組みを、共につくりあげていくことができると感じたのです」（横田氏）。

導入後の成果

安定したICカード運用を実現 将来的なデータ活用も視野に

プロジェクトは、幾度もの打ち合わせを繰り返しながら進められました。

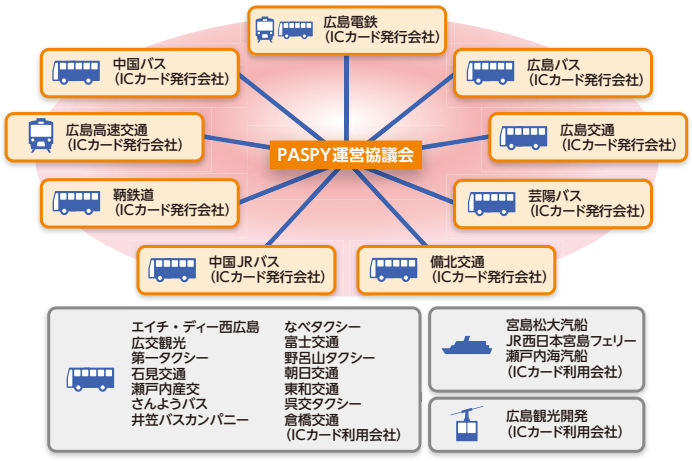
「運営協議会には、中核となるカード発行事業者9社以外にも、合計27の交通事業者が参加しています。そのため、全体の意思統一には多くの困難が伴いますが、NECは、豊富な知見とフットワークを生かし、スムーズに意見を取りまとめてくれました。結果、通常なら2年はかかる規模の開発を短期間で完遂できました」と横田氏は満足感を示します。

こうして新しいPASPYのシステムは稼働を開始。性能や安定性、拡張性の課題をトータルに解消することができています。「以前のように、頻繁に上がるアラートの対応に追われたり、月次の清算処理をハラハラしながら見守ることはなくなりました。また、従来は個別のベンダーとやりとりしてきた各種端末の保守も、問い合わせ先をNECに一本化。システム運用面も大きく簡略化できています」（藤原氏）。

運用負荷が削減できたことで、新たな施策の企画・検討にも取りかかれるようになりました。現在は、ICカードで蓄積した利用者データの分析・活用を計画中。乗車履歴データを基に、運賃最適化や路線再編などを行うことで、利用者にとってさらに「わかりやすく、乗りやすい」交通機関を目指しています。

「ゆくゆくは、広島県域を超え、より広範なエリアの交通事業者にもPASPYを提案していきたいと考えています。NECには今後も、さらなる提案を期待します」と横田氏は話します。

●PASPYの運営・利用体制



ICカードを発行する交通事業者9社で構成されるPASPY運営協議会がPASPYの企画・運営を実施。そのほか、カード発行は行わず、利用のみ可能な18社をあわせた計27の事業者が関係している。

お問い合わせは、下記へ

NEC 交通・物流ソリューション事業部

TEL：03 (3798) 5958

E-mail：info@iccard.jp.nec.com

●本カタログに記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。
●このカタログの内容は改良のため予告なしに仕様・デザインを変更することがありますのでご了承ください。
●本製品の輸出（非居住者への役務提供等を含む）に際しては、外国為替及び外国貿易法等、関連する輸出管理法令等をご確認の上、必要な手続きをお取りください。ご不明な場合、または輸出許可等申請手続きにあたり資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの弊社営業拠点にご相談ください。

UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

VEGETABLE OIL INK 環境にやさしい植物油インキを使用しています。

日本電気株式会社　〒108-8001　東京都港区芝五丁目7-1（NEC本社ビル）

2015年8月現在

Cat.No. G99-15080039J